

2014年のロッシーニ音楽祭レポート(2)

ペーザロのアカデミアとヴィルトバートのロッシーニ音楽祭 2014

井内 美香

▼ペーザロのアカデミアとヴィルトバートのロッシーニ音楽祭 (2014年7月) ▼

◎アカデミア・ロッシニアーナ終了コンサート

7月にイタリアとドイツに行ってきましたのでご報告です。今年は残念ながら8月のペーザロには行かれませんが、せめても、ということで7月18日のROF(ロッシーニ・オペラ・フェスティバル)「アカデミア・ロッシニアーナ」の終了コンサートに行ってきました。

アカデミアには例年通り世界各国から若い歌手達が集まっていたようです。コンサートでは一人一人、舞台上に登場して名前と国籍を言う場面があったのですが、イタリア、スウェーデン、スペイン、ペルー、イスラエル、ロシア、クロアチア、ウクライナ、アメリカ、中国、日本等々、本当に国際色豊かでした。合計19名。

コンサートは休憩を挟んでかなり長いものでした。今年には日本人歌手が二名出演していましたが、注目は真正ロッシーニ・メゾとでも言うべき脇園彩さん。まだ荒削りですが声の音色が良く、アジリタで感情を表現する事が出来る素晴らしい歌手でした。長い黒髪の大柄な美貌で《セビリヤの理髪師》から **Una voce poco fa** と《タンクレーディ》の二重唱を歌い、お客さんから大喝采を浴びていました。またもう一人の丸尾有香さんは全然タイプの違うこちらはデリケートな美女で、アルト的な深い音色のメゾ。《オーリー伯爵》のアデルとラゴンドの二重唱を歌い、フランス語が似合う洗練された雰囲気でした。二人とも舞台での積極性もあり、日本の若い歌手達も凄い水準になったなあ、と感慨深かったです。

それに加えロシア人のテノール Anton Rositsky が《ギヨーム・テル》のアルノールのアリアを歌って輝かしい声を聴かせ、中国人のバリトン Yunpeng Wang が端正なルックスに大変な美声、そしてスペインのソプラノ Isabel Rodriguez García も《ランス》のフォルヴィルを歌い華麗なるテクニック、アルメニアのソプラノ Hasmik Torosyan の気品ある歌唱、イタリア人ソプラノ Giulia De Blasis のこなれた演技、クロアチアのバス Marko Mimica の美声など、後々まで記憶に残る個性的な歌手が揃っていました。そして毎年恒例らしい《ランスへの旅》の14重唱を全員で歌うフィナーレ。客席の一番前の列でゼッダ先生が若者達をエネルギーギッシュに指揮するお姿が感動的でした。

◎スカラ座の《オーリー伯爵》

7月21日はスカラ座で《オーリー伯爵》を観劇。フローレスがキャンセルした事はミラノに到着する前から知っていましたが、代役のコリン・リーを聴くのが初めてだったのと、リヨンで2月に新演出されたロラン・ペリー演出の舞台なので注目していました。結果としては、コリン・リーはフローレスとはタイプがまったく違うテノールで、声も太めですが高音は輝かしく演技も面白く満足。家庭教師のロベルト・タリアヴィーニは安心の歌唱、アデーレのクルザックも熱演、イゾリエのロ・モナコも好演でした。ペリー演出はプログラムによるとクロード・シャブロール監督の映画の雰囲気を出したかったそう

ACCADEMIA ROSSINIANA	
Seminario permanente di studio sui problemi della interpretazione rossiniana diretto da Alberto Zedda	
2014 3-18 luglio	
Teatro Sperimentale	
PROGRAMMA	
Giovedì 3 luglio 11.00 - 13.30 Inaugurazione dell'Accademia e presentazione dei corsi Gianfranco Mariotti, Alberto Zedda 15.30 - 19.00 Corso di interpretazione vocale condotto da Alberto Zedda Coordinamento musicale Anna Bigliardi	Sabato 12 luglio 10.30 - 13.30 Master Class Juan Diego Flórez 15.30 - 19.30 L'avventura del trucco Luca Oblich
Venerdì 4 luglio 10.30 - 13.30 Corso di interpretazione vocale 16.00 - 18.00 <i>Dalla funzione dei muscoli del tronco al canto</i> Frank Musarra	Domenica 13 luglio Riposo
Sabato 5 luglio 10.30 - 13.30 Master Class 15.30 - 18.30 <i>La consapevolezza dei risonatori al servizio del timbro vocale: fisiologia e prevenzione</i> Franco Fassi	Lunedì 14 luglio 10.30 - 13.00 Corso di interpretazione vocale 16.00 - 17.30 <i>Cantare Rossini: teoria e pratica</i> 18.30 - 20.00 Incontro con gli artisti di Armida
Domenica 6 luglio Riposo	Martedì 15 luglio 10.30 - 13.30 Corso di interpretazione vocale 15.00 - 16.30 <i>Il mio lavoro come regista d'opera</i> 18.00 - 20.00 Incontro con gli artisti di Aureliano in Palmira
Lunedì 7 luglio 10.30 - 13.30 Corso di interpretazione vocale 16.00 - 18.00 <i>Il suono e l'improvvisazione</i> Marco Mencoboni	Mercoledì 16 luglio 10.30 - 12.30 Corso di interpretazione vocale 12.30 - 13.30 Discussione su temi e contenuti dell'Accademia 2014 15.30 - 19.30 <i>Momenti di interpretazione e improvvisazione</i> Elsabetta Courir
Martedì 8 luglio 10.30 - 13.30 Corso di interpretazione vocale 15.00 - 16.30 <i>Il mio lavoro come regista d'opera</i> Luca Ronconi 16.30 - 18.00 <i>Edizione critica e prassi esecutiva</i>	Giovedì 17 luglio 11.00 - 14.00 Prova regia Concerto 16.00 - 20.00 Prova generale Concerto
Mercoledì 9 luglio 10.30 - 13.30 Corso di interpretazione vocale 16.00 - 17.30 <i>Il mestiere del cantante</i>	Venerdì 18 luglio 20.00 Concerto conclusivo Accademia Rossiniana 2014 Pianoforte Anna Bigliardi
Giovedì 10 luglio 10.30 - 13.30 Corso di interpretazione vocale 16.00 - 18.00 <i>Il canone e la polifonia</i> Marco Mencoboni	Quando non diversamente indicato, le lezioni sono condotte da Alberto Zedda
Venerdì 11 luglio 10.30 - 13.30 Corso di interpretazione vocale 16.00 - 17.30 <i>L'enigma Rossini</i> Gianfranco Mariotti	Rossini Opera Festival - Accademia Rossiniana Via Rossini, 24 - 61121 Pesaro Telefono 0721.3800214 - Fax 0721.3800220 e-mail artisti@rossinioperafestival.it skype rolartisti

2014年アカデミア・ロッシニアーナ講習プログラム

ですが、そのようなインティメイトな演出を大きなスカラ座で観てもピンと来ませんでした。レンゼッティの指揮はもう少し覇気があったら良かったです。

◎ヴィルドバートのロッシェニ音楽祭《ブルグントのアデライデ》と《ランスへの旅》

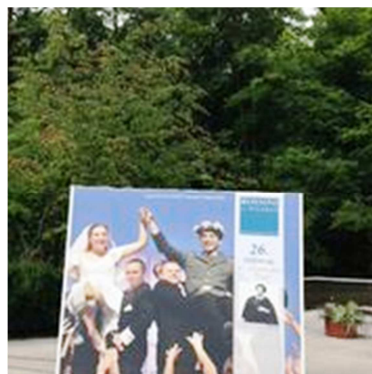
そして、今回初めて訪れたのがドイツのバート・ヴィルドバートでのロッシェニ音楽祭(正式名称は Rossini in Wildbad: Belcanto Opera Festival)です。高原の温泉地で足の悪い高齢の方が多く、緑が多い素晴らしい土地です。街の中には錆色の川が流れていましたがこれが温泉の元になる水なのでしょうか？ 音楽祭は1989年からで、一夏の観客数は約6000人。保養地のお客さんよりはやはり音楽祭を目指してくる人が多いそうで、外国人は30%位でスイス人、フランス人などのヨーロッパからが多く、アメリカ人も来ますが日本人は極少ないそうです。確かに、二両編成くらいの登山電車に揺られて到着した駅にはタクシーが全くいない、などハードルは少々高い感じでした。チケット代は80ユーロ強。

ロッシェニが温泉に保養に来ていたという理由でこの地での音楽祭が始まったようで、ゼツダ先生も関わっていた時期があります。音楽祭の特徴は、ロッシェニに加え同時代の作曲家の珍しい作品の蘇演とNaxosを通じたCD化です。今年は《ブルグントのアデライデ》《ランスへの旅》に加え、モルラッキの《テバルドとイゾリーナ》をコンサート形式で上演していました。モルラッキは日程が合わず、リハーサルを少し覗かせていただきました。200席の小さな劇場がありとても美しいのですがこちらはレコーディングやコンサートに使用され、オペラは500席ある市のイベント・ホール的な場所で上演されます。イタリア語とドイツ語が併用された字幕が出るので大変助かりましたが、これはドイツのロッシェニ協会が担当しているそうです。字幕を出していたレート・ミュラーさんという方から水谷先生と協会の皆さんによるしくお伝えください、とのことでした。

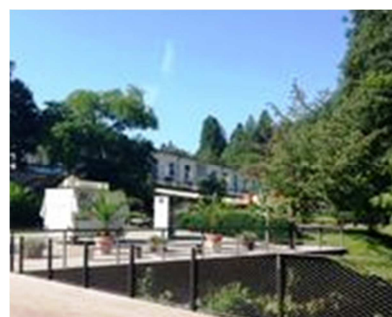
肝心の演奏ですが、ポーランドの合唱団、ブルノのオーケストラで、特にオーケストラは悪くありませんでした。歌手は各地でオーディションをして採用する若手を有名歌手がコーチングするシステムだそうで、《ランスへの旅》はトロンボノクで出演していたブルーノ・プラティコの他にラウル・ヒメネツが指導。《テバルド》にはラウラ・ポルヴェレリが出演、他にも現地にはロレンツォ・レガッツォさんがいました。歌手達は《アデライデ》のオットーネ役だったロシア人のメゾ歌手 Margarita Gritskova が美人で美声、情熱的な歌唱でとても良かったです。他の歌手も悪くありませんでしたが、《ランスへの旅》はペーザロの《ランス》と似た感じで若い歌手達を奨学金で呼んで来ているようで(それにしてはチケット代が高いのですが)、出演者も多いため歌手の実力にかなりばらつきがありました。ちなみに、この上演とは別に今年は前半にラウラ・ジョルダノ、アレクサンドラ・マリアネリ、マリアンナ・ピッツォラート、ミルコ・パラッツィ、ブルーノ・デ・シモーネ、マキシム・ミロノフなどが参加した豪華キャスト版の《ランスへの旅》のコンサート形式上演兼レコーディングがありました。

《アデライデ》のイロルドと《ランスへの旅》のドン・ルイジーノとゼフィリーノ役にはパルマ在住の Yasushi Watanabe さんというテノールが出演していました。指揮は《アデライデ》がルチャーノ・アコチェッラ、あとの二演目は音楽監督であるアントニーノ・フォリアーニ。どちらも良かったです。演出はとにかく舞台が狭いのでかなり制限がある中での作業、という感じでした(舞台裏も無いに等しいらしいです)。《アデライデ》はイタリア人のアントーニオ・ペトリス、《ランスへの旅》はこの音楽祭の総裁でもあるヨアヒム・シェーンレーベルでした。

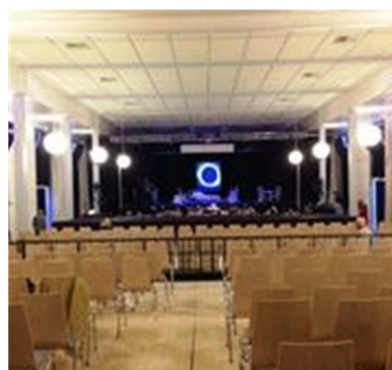
以上、行くのは大変ですし、ロッシェニの演奏に関してはペーザロの方がずっと充実してはいるのですが、まったく違った場所でのロッシェニ体験、そしてモルラッキのオペラを少しだけ聴く事が出来て有意義な滞在でした。



会場前の看板(筆者撮影)



2階がオペラの会場(筆者撮影)



オペラ会場の客席と舞台(筆者撮影)

た。もし行かれる方があれば、公演後はホールの下にあるイタリアンで食事なさってください。それが唯一の可能性ですし、出演者の皆さんも毎晩そこで食事だそうです。ボローニャ歌劇場来日公演で大変お世話になったブラティコさんに再会出来て嬉しかったです。

付記：本稿は日本ロッセーニ協会メールマガジン「ガゼッタ」第72号（8月10日 配信）への寄稿から一部表記を変更し、
図版を加えて『ロッシニアーナ』第35号に転載した文章の書式変更版です。 （井内美香）



音楽祭のロゴマークと《アデライデ》カーテンコール(Rossini in Wildbad @Rossini_Wildbad より)